



東洋大学



熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

「災害と子どもの権利」

東洋大学人間科学総合研究所では、研修を受ける機会が限られている地域の子どもに関わるソーシャルワーカー等を対象に、2019年度から2022年度にわたり、愛媛県社会福祉士会との共催で、参加費無料の研修会を実施してきました。2023年度は、熊本学園大学との共催および熊本県社会福祉士会の協力を得て、「子どもの権利と自治体施策」と題した研修会を開催いたしました。2024年度も、熊本にて研修会を実施いたします。

2023年度は、東洋大学人間科学総合研究所員と、熊本県で様々な児童福祉実践に関わっておられる専門職の方々が登壇し、国際的な子どもの権利擁護の状況や東京・熊本・愛媛での児童福祉実践を「子どもの権利」という視点から読み解きました。また、外国にルーツのある子どもへの支援やソーシャルワーク実践に求められる価値について、日米の倫理綱領比較を通して考える機会を持ちました。

2024年度は、社会福祉士の新カリキュラムにも含まれている「非常時・災害時の専門職に求められている支援と子どもの権利」をテーマに、熊本地震および能登地震での災害支援に携わった方々にも登壇して頂き、来る災害に備え、自治体や関連機関、地域住民間のネットワーク構築をめざしてまいります。

意見交換やディスカッションの時間も設けることで、不足している社会資源を明らかにし、開発していくために何ができるのかを考える機会としたいと考えています。

本研修会は、「災害と子どもの権利擁護」の視点から子どもの支援について学ぶ内容ですが、どの分野・対象を支援しているかを問わず広く受講者を募ります。皆様のご参加をお待ちしています。

対象者 子どもの権利と自治体施策に関心のある方
日時 2024年10月12日(土) 13:00~17:10
場所 〒862-0971
 熊本県熊本市中央区大江2丁目5-1
 熊本学園大学1号館131教室ほか
連絡先 sodan7643@toyo.jp
参加費 無料
定員 120名



申込方法 下記のURLかQRコードからGoogle Formにアクセスして必要事項を入力してください。

URL : <https://forms.gle/xsSYvhvjb2EYvooZ6>

申込受付締切：2024年10月7日(月)

(締切以降も申込を受け付けます)



日 程

*時間配分については、変更の可能性がございます
*講師については「講師プロフィール」をご参照下さい

【10月12日（土）】

13:00～13:10	開会あいさつ
13:10～14:40（90 分間）	シンポジウム「災害と子どもの権利 ～災害時支援の実状～」 講師 森田 明美（東洋大学 名誉教授） 講師 出川 聖尚子（熊本学園大学 教授） 講師 加藤 謙介（九州医療科学大学 教授）
14:40～14:50	— 休憩 （10 分間） —
14:50～16:10（80 分間）	分科会・質疑応答・ディスカッション
分科会 1	災害時支援の実状 森田 明美（東洋大学 名誉教授） 中智 美（東洋大学福祉社会開発研究センター 研究員） 堀端 裕（堀端社会福祉士事務所）
分科会 2	熊本県地震時の支援とその後 出川 聖尚子（熊本学園大学 教授） 熊本学園大学 卒業生（調整中） 遠山 健吾（熊本県社会福祉士 会員）
分科会 3	災害と外国にルーツを持つ子どもとその家族への支援 村上 一基（東洋大学 准教授） 中島 眞一郎（コムスタカ 代表）
分科会 4	ソーシャルワーク教育と災害時のペットとその家族への支援 佐藤 亜樹（東洋大学 准教授） 加藤 謙介（九州医療科学大学 教授）
16:10～16:20	— 休憩 （10 分間） —
16:20～17:05（45 分間）	分科会での内容共有と意見交換・ディスカッション 全体まとめ
17:05～17:10	閉会挨拶・アンケートへの回答

【講師プロフィール】

加藤 謙介（かとう・けんすけ）

九州医療科学大学臨床心理学部教授。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。2007年より現職に赴任。専門はグループ・ダイナミックス（社会心理学）。高齢者施設での動物介在療法・ロボット介在活動における規範生成、「地域猫」活動におけるコミュニティでの「対話」構築、ペット飼育をめぐる高齢者の語り等、「人と動物の関係」に関わるフィールドから、人の心理・福祉・生活の課題について研究を進める。熊本地震（2016年）以降は、「人とペットの防災・減災」に関する研究・実践に携わっている。

佐藤 亜樹（さとう・あき）

米国コネチカット大学大学院ソーシャルワーク学部博士課程修了（Ph.D.取得）。同志社大学文学研究科博士課程（前期）修了後、京都の社会福祉法人に勤務。2002年に渡米し、2014年に帰国。松山大学を経て、現在、東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科准教授。米国ミシガン大学大学院（M.S.W.取得）および米国コネチカット大学大学院在学中は、ソーシャルワーク援助プロセス、面接技術、実践理論、および量的社会調査法について学んだ。現在は、飼い主にとってのペットの存在の意味について、また、飼い主のペットとの愛着関係の強さや質が、飼い主の幸福（well-being）や行動にどのような影響を及ぼすのかについて研究している。また、ペットとの愛着関係の強さや質が、災害時の飼い主の避難行動にどのように影響を及ぼすのか、家庭内での動物虐待や児童虐待との関連性、ペットを失った飼い主の悲嘆への支援についても研究中。2021年度より、東京都世田谷区子ども・子育て会議委員。

出川 聖尚子（でがわ・りさこ）

熊本学園大学社会福祉学部子ども家庭福祉学科教授。早稲田大学大学院博士後期課程単位取得退学。早稲田大学文学部助手、湘南工科大学客員講師を経て2004年より熊本学園大学へ。専門は児童福祉。子育ての社会化をめぐる諸問題に関する研究、若年期の妊娠や出産の支援に関する研究、若年期の子育て支援に関する研究、保護者支援に関する研究を行っている。中でも若年妊娠出産した女性やひとり親家庭に関する支援についての研究を進めており、10代で出産し、ひとり親となった女性たちへの聞き取り調査を続けている。

遠山健吾（とおやま・けんご）

1978年熊本県生まれ。益城町在住。2001年熊本学園大学社会福祉学部社会福祉学科卒業。特別養護老人ホーム勤務後、2005年益城町社会福祉協議会入社。熊本地震後は、2018～2022年度まで仮設団地やみなし仮設住宅、在宅被災世帯の見守り・訪問活動等を行う地域支え合いセンターでセンター長。現在は、重層的支援体制整備事業において、コミュニティソーシャルワーカー事業に従事。

熊本県社会福祉士会会員。災害時支援委員会、研修委員会に所属。令和2年7月豪雨災害では、熊本県南の被災地（球磨村）の支援活動に従事。2022年度より災害時支援委員会委員長。

中 智美（なか・ともみ）

元家庭裁判所調査官。退職後、上智大学博士前期課程総合人間科学研究科社会福祉学専攻に進学し、2023年3月修了（社会福祉学修士）。公認心理師。世田谷区の子どもの人権擁護機関や社会的養護アフターケア事業所で相談業務に携わる。2024年4月から武蔵野市子どもの権利擁護委員。令和6年能登半島地震では、親族宅が被災。一般社団法人 東日本大震災子ども・若者支援センターによる「被災したこどもの居場所における権利擁護に向けた支援者支援事業」（こども家庭庁・NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル

事業（国庫補助協議）（応募）を一部受託し、石川県内で被災者支援を行う NPO 等の訪問調査を行った。2024 年 7 月からは、令和 6 年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業「災害時におけるこどもの居場所づくり調査研究事業」（こども家庭庁）に東洋大学福祉社会開発センター研究支援者として参加している。

中島 眞一郎（なかしま・しんいちろう）

京都府出身、1954 年生れ。1973 年より熊本市在住。職歴は、予備校講師をへて、2009 年より行政書士資格を取得し、行政書士事務所開設し、現職は行政書士。1985 年 9 月「滞日アジア女性の問題を考える会」の結成に参加、1993 年 4 月「コムスタカー外国人と共に生きる会」に名称変更後、副代表、2009 年 8 月から代表就任して現在に至る。約 39 年以上熊本県内や九州内に在留する外国人、主に移住女性の人権相談活動を担当。

共著書

- ・「入管行政の『開かずの門』への挑戦—退去強制発付処分後の在留特別許可を取得した 4 つの家族の事例」（『非正規滞在者と在留特別許可』 日本評論社 2010 年）
- ・「相談事例から外国にルーツを持つ子どもの人権を考える」（『アジア・太平洋人権レビュー 2011 外国にルーツをもつ子どもたち 思い・制度・展望』財団法人アジア・太平洋人権情報センター編 現代人文社 2011 年）
- ・「災害時の多文化共生—熊本地震！在住外国人被災者救援活動の体験から」（『移民政策研究』第 9 号 移民政政策学会編 明石書店 2017 年）
- ・「散住地域での多文化共生へ向けたコムスタカー外国人と共に生きる会の取り組み—行政への施策提言を中心に」（『地方発多文化共生のしくみづくり』 晃洋書房 2023 年）

堀端 裕（ほりばた・ゆたか）

元熊本県職員。2008 年早期退職後、熊本学園大学社会福祉学科修士課程進学、2010.4 月終了。同年「堀端社会福祉士事務所」（独立型社会福祉士）開業。福祉関係全般の相談・支援、専門学校非常勤講師、福祉サービス第三者評価調査員、成年後見受任、社会福祉法人監事、ボランティア活動として、ハンセン病療養所退所者の地域生活支援、ホームレス生活者や生活困窮者支援等を実践中。熊本県庁時代の職務歴：福祉事務所生活保護 CW 及び SV 並びに福祉課長、児童相談所児童福祉司・熊本県八代児童相談所長・熊本県中央児童相談所長、熊本県医務福祉課生活保護班班長、社会福祉法人・社会福祉施設指導監査班班長、地域福祉推進室班長、医療政策総室国保・老人医療室室長など。社会福祉学修士、認定社会福祉士、精神保健福祉士、児童福祉司など。

村上 一基（むらかみ・かずき）

東洋大学社会学部国際社会学科准教授。博士（社会学、パリ・ソルボンヌ大学 [パリ第 4 大学]）。専門は社会学（国際社会学、都市社会学、フランス地域研究）。「エスニック・マイノリティの統合とアイデンティティ」の問題に関心を持ち、特にフランスの都市部郊外における移民集住地区をフィールドに、ムスリム移民や第 2 世代について研究している。また日本における外国にルーツを持つ若者や地域の多文化共生に関して、研究、教育、実践といったさまざまな側面からかかわっている。とくに外国にルーツを持つ若者に関して、高校進学や大学進学に関する研究を実施するとともに、市民団体と協働で東洋大学を会場に進路ガイダンスを実施したり、学習支援（多文化共生センター東京）、外国人教育相談（多文化共生教育ネットワークかながわ）などに携わっている。

主要業績：

- ・『国際社会学 改訂版』（分担執筆、有斐閣、2023 年）

・エマニュエル・サンテリ『現代フランスにおける移民の子孫たち——都市・社会統合・アイデンティティの社会学』（翻訳、明石書店、2019年）ほか

森田 明美（もりた・あけみ）

東洋大学名誉教授。東京都ひとり親家庭自立支援計画（第4期）策定委員会会長、東京都世田谷区子ども・子育て会議会長、東京都西東京市子ども・子育て審議会会長等を歴任。埼玉県、飯能市、和光市、東京都、西東京市、世田谷区、千葉県八千代市、船橋市等の子ども・子育て支援計画、次世代育成支援 行動計画、推進委員会、子ども・子育て計画、権利擁護の仕組みづくり、保育サービスの質の向上などにかかわる。2020年度には公立保育所の不適切保育、母子生活支援施設実践ガイドラインなどの作成にかかわる。

専門は、子どもの権利を基盤にした児童福祉学。日米の共働き・シングルマザー・シングルファザー、10代の母親など子育て家庭の実態と、保育所・幼稚園、児童館・放課後児童クラブなどによる子育て支援に関する実証的研究を行ってきた。地域や家庭で子どもが育つことを支える仕組みをどのように作りだすかが研究の中心課題である。関東を中心に、保育所や児童養護施設の理事・評議員・苦情解決委員としての活動や、13自治体の子ども計画や子育て支援計画策定と推進、評価にかかわってきた。また、子どもの権利実現のための実践研究や国連 NGO・NPO 活動にも関わっている。

主な著書に、『子どもの権利—アジアと日本』三省堂、『子どもの権利条約から見た日本の子ども』現代人文社、『子どもの相談・救済と子ども支援』『子どもにやさしいまちづくり第2集』『逐条解説 子どもの権利条約』『子どもの権利日韓共同研究』『子ども計画ハンドブック』『子ども条例ハンドブック』以上日本評論社、『よくわかる女性と福祉』『シングルマザーの暮らしと福祉政策-日本・アメリカ・デンマーク・韓国の比較調査』『日米の働く母親たち』『日米のシングルマザーたち』『日米のシングルファザーたち』以上ミネルヴァ書房 / 『生活変動と社会福祉』放送大学出版等がある。

寄口 裕誠（よりぐち・ゆうせい）

2020年に熊本学園大学 社会福祉学部 社会福祉学科卒業。在学中は学生ボランティア団体の「おひさまカフェ」に在籍し、熊本地震後に開設されたテクノ仮設団地にてサロン（カフェ活動）に参加していた。活動内容としては、高齢者から幼児まで幅広い住人に対して傾聴活動や見守り支援などを行っていた。現在は熊本市の児童養護施設にて児童指導員として勤務している。